出生コホートにおけるOmics解析による最新知見と環境曝露削減の取り組み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 千里 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3234

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2017 年 第 6 巻 第 1 号 9 頁

出生コホートにおける Omics 解析による最新知見と環境曝露削減の取り組み

○森　千里[1)2)]

千葉大学予防医学センター[1)]　千葉大学医学研究院環境生命医学[2)]

私たちのグループは、ヒト胎児の化学物質の複合汚染や曝露評価に関する研究(Mori & Todaka, Environmental Contaminants and Children's Health, 2011 MARUZEN PLANET Co., Ltd.)から、これまでに化学物質曝露と子供の健康影響に関する研究を進めて来ている。

今回の発表では、DOHaD 機序の解明を目指して千葉大学で進めている Omics 解析(Exposome, Epigenome, Microbiome, Metabolome 等)を中心とする千葉出生コホート研究（C-MACH）(Sakurai et al. BMJ Open. 2016.1.29. 6:1.e01053. doi: 10.1136/bmjopen-2015-010531. PubMed PMID:26826157; PubMed Central PMCID: PMC4735302)から分かってきた環境要因（化学物質曝露、腸内細菌叢等）と、児の出生体重やエピジェネティク変異などとの関係について(Miyaso et al. Environmental Research 157: 1-8, 2017; Tachibana et al, J Diabetes Investig. 2016 Nov 18. doi: 10.1111/jdi.12598)、最新の研究成果を紹介する。加えて、最近発表した残留性化学物質類の環境曝露削減の取り組み案"For a healthier future: a virtuous cycle for reducing exposure to persistent organic pollutants"(Mori and Todaka; JECH Online First, published on May 17, 2017 as 10.1136/jech-2016-208088)についても説明する。

【略歴】

1984年 3月 旭川医科大学医学部卒業
1984年 5月 京都大学医学部 助手（解剖学第3講座）
1990年 7月 米国国立衛生研究所環境健康科学研究所NIH/NIEHS
Visiting Associate/客員研究員
1992年 5月 京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座 助教授
2000年 4月 千葉大学医学部 教授（解剖学・発生学）
2001年 4月 千葉大学大学院医学研究院 教授
2006年 4月 米国ミネソタ大学公衆衛生学部 客員教授（兼任）
2007年 4月 千葉大学予防医学センター 副センター長（兼任）
2008年 4月 千葉大学予防医学センター センター長（兼任）
2009年12月 韓国仁済大学医学部 客員教授（兼任）（環境医学）
2010年 4月 環境省エコチル調査千葉ユニットセンター長（兼任）
2013年 5月 千葉大学革新予防医科学教育研究センター長
2016年 4月 千葉大・金沢大・長崎大先進予防医学共同専攻千葉大学先進予防医学共同研究センター長
2016年 4月 東京医科大学 客員教授（兼任）（人体構造学分野）

【演者・共同演者全員と所属の英語表記】

Chisato Mori
Center for Preventive Medical Sciences, and Department of Bioenvironmental Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University